

令和5年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の審査における  
地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業推進委員会の総評

令和5年12月22日  
地域中核・特色ある研究大学の振興に係る事業推進委員会

令和5年度「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」の申請において、69の大学が意欲的な提案を提出されたことに対し本委員会として心より敬意を表します。

各大学からの提案では、大学が自らの課題に真摯に向き合いつつ、10年後に目指す姿を構想し、それに向けて強化が必要な研究分野や社会実装を目指すテーマを見出した上で、研究力の向上戦略とそれを実現するための計画が構想されていました。

その中でも特に採択大学については、主に、以下の点について総合的に勘案し、高く評価しました。10年後には、これらの大学が世界の中で輝く大学となることを期待します。

- ① 客観的かつ多面的なアウトプット・アウトカム指標から大学の研究力を十分に分析していること
- ② 戦略の実現に向けて学長を中心とした取組が着実に実施されるよう、大胆かつ実効的な計画やロードマップを設けていること
- ③ 改革について大学全体への波及効果を期待できること
- ④ 地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能や体制が整備されていること
- ⑤ 地域社会との実効的な連携の下で地域課題解決に貢献しうる計画となっていること
- ⑥ 他機関との効果的な連携等を通じて自大学の強みを更に発展させる戦略となっていること
- ⑦ 戦略の推進に必要なガバナンス体制が整備されていること

なお、意欲的な取組が多いがゆえに困難な道のりとなることも考えられます。文部科学省及び日本学術振興会には、外部有識者の知見も活用しつつ、各大学の主体的な取組を尊重した、大学に寄りそった支援を求めます。

不採択大学についても、学長を中心に全学的な戦略の検討を行い、本事業に対し、意欲的な提案を申請されたことは大いに評価しています。しかしながら、戦略やそれを実行するための計画については、その解像度を高めたり、具体化を進めたりするための掘り下げた検討が必要と考えられ、今回の採択の水準には達していないと判断しました。

これらの大学も含め、次回の公募に向けた研究力の向上戦略等の検討にあたっては、今後公表される採択大学の取組内容等も参考にして、より一層の検討を求めます。

本委員会としては、今年度採択された大学が日本を代表する地域中核・特色ある研究大学へと発展されることを強く期待します。また、次回公募においても、日本の研究力をけん引する研究大学群の一翼を担おうとする多くの大学から意欲的な提案がなされることを希望します。